

交流のひろば

おたより コーナー

地域の輪の中

百人一首学ぶ

元総社町 伊藤 洋平 11

ぼくは、小学一年生の時に、地域で百人一首講習会が開かれているのを知りました。お母さんが、「かるただから楽しいよ」と言ったので、気軽に参加してみました。それから今年で六年目になります。

講習会は、毎年九月から十二月ま

まちのニュース

NEWS

ペットボトルで おもちゃ作り

城南地区

十二月一日、城南公民館で少年教室が開催されました。小中学生を対象に年十回実施。今回のテーマはリサイクルで、「捨てちゃもったいないよね」と題し、風で動くペットボトルの車を作りました。参加者は親子など二十人。二

での土曜の午後、地域の小中学生が七十人くらい集まって行われていました。運営しているのはボランティアの人たち。読み札を読んでもくれたり、しんぱんをしてくれたりします。一首一首、みんなで読んで覚えることも。十二月の最後には、真けん勝負で試合をして盛り上がります。

この講習会で、別の学校の友達が増え、学年の違う友達もできました。また、すごいと思うのは、百人一首は古典の勉強だけれど、みんなで笑いあって楽しくできること。だから、なるべく休まず参加しています。

ぼくは、この講習会に参加したことで、百人一首に興味を持ちました。これからも勉強を続けて、いろいろな短歌の作者や意味を覚えられよう頑張りたいと思います。

まえばしの今と昔

市民が憩う 遊歩道公園

馬場川通り



昭和五十年ころの馬場川通りです（写真上、写真下は現在）。中央通りから前橋・赤城線までの約四百の区間をいいます。馬場川は、風呂川から分水した川。昭和五十年から五十一年度にかけ、「水と緑のシンボルゾーン計画」で遊歩道公園として整備され、市民に親しまれています。

サイズのペットボトルを車体にし、五百サイズの物の底を切り抜いて作ったタイヤを取り付けます。次に、トレーなどで風受けを作製。装飾品とともに車体に固定します。最後にマジックペンで思い思いの色を塗って出来上がりです。

完成後、子どもたちは早速廊下に出て、うちわであおいで風をおこし、車のスピードを競い合いました。ゴミとして捨てられてしまうペットボトルも、ちょっとした工夫で、とても楽しいおもちゃに。参加した子どもたちは、物を大切にすることをあらためて学びました。

